

〔廻國雜記〕ところ澤といへる所へ遊覽にまかりけるに、福泉といふ山伏、觀音寺にてさゝえをとり出しけるに、薯蕷といへる物、さかなに有けるを見て、誹諧

野遊のさかなに山のいもそへてほりもとめたる野老澤かな

〔梵舜日記〕慶長二十年正月十四日辛酉、妙法院殿を荷桶肴三種、饅頭、毘布薯蕷一折被下也、

〔官中秘策〕年中諸大名獻上物之事

九月

一薯蕷

大久保長門守

十月 寒中獻上此月ニ入ル

一薯蕷 鹽雉子 寒中

秋元攝津守

一薯蕷

松平越中守

一薯蕷

南部甲斐守

十二月

一自然生薯蕷

牧野豊前守

〔年中恒例記〕九月九日

今日より十二月廿日迄、御かゆ栗こぶ參る、山のいもおろし候て參せ候、御かゆの入料、政所より請取之云々、進士説、

〔梅花無盡藏〕<sup>三上</sup>二十日<sup>○長享二</sup>能生逆旅之主、爲余調諸薯蕷之麵子、設浴湯之室、懇切不知所謝、蓋

以諸蕷爲麵者、越府大主房<sup>○上杉</sup>之筵而始見之、惜哉、洛盤未知此風味、

逆旅眉寒離帶稜、麵調諸蕷、主人蒸蛻塵衣入浴湯室、忘却途中履薄氷、

〔毛吹草〕山城ヌカゴ

薯蕷產地